

シラバス参照

科目名	経営史 I
配当年次	1年次
開講期間	春学期
単位数	2
担当教員	辻 智佐子(ツジ チサコ)
期間・曜日・時限・教室	春学期 木曜日 1時限 23-410

※	
授業の目的・目標	<p>【授業の概要】:本講義は、日米の自動車産業を事例に経営史的視点からその歴史を見ていき、産業発展やイノベーションのプロセスについて考える。</p> <p>【授業の目的】:20世紀は、18世紀からはじまる欧米諸国を中心とした工業化をへて、大量生産体制が確立し、生産現場においても経済政策においても優先的な地位を与えられた時代であった。しかし、21世紀にはいり、この体制をとりまく環境が大きく変化するなかで、われわれはひとつのターニングポイントを迎えている。そこで、授業では「20世紀という時代がいかなる時代だったのか」を自動車産業を事例にとり上げ、経営史・経済史的視点から現在われわれが直面している問題とは何かを考えていきたい。そしてこの講義を通して、現在われわれが直面している様々な経済問題に対して解決の糸口を見つけることを目的とする。</p> <p>【習得できる力】:経営学部ディプロマポリシーあるいは全学部ディプロマポリシーとの関連については、別紙に記載。</p> <p>【授業の到達目標】:自動車産業について日米の発展史について理解し、産業発展のプロセスについて経営史的視点から理解する。</p> <p>【実務経験と授業内容との関連】:特になし</p>
準備学習等の指示	この授業は1回の授業につき3時間の準備学習が必要である。また、課題(確認テスト、レポート等)提出はWebclassを用いる。授業で配布する参考文献一覧のなかの専門書に目をとし、事前に予備知識をつけておくこと。また、授業で配布されるレジュメや資料をつかって、毎回復習することをすすめる。
講義スケジュール	<p>■1回目 【テーマ】問題提起(ガイダンス) 【到達目標】この講義のテーマについて理解する 【準備学習】配布の参考文献一覧をチェックする</p> <p>■2回目 【テーマ】理論的枠組み(1):歴史と経済 【到達目標】歴史と経済をそれぞれ定義し、その関係を理解する 【準備学習】関連する参考文献を読む</p> <p>■3回目 【テーマ】理論的枠組み(2):経営史の理論的前提(シュンペーター理論) 【到達目標】「経営史」の理論的支柱となっている理論について理解する 【準備学習】2回目の講義内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■4回目 【テーマ】理論的枠組み(3):経営史とは 【到達目標】「経営史」の学問的役割について理解する 【準備学習】3回目の講義内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■5回目 【テーマ】バクス・アメリカナ(1):アメリカにおける工業化の開始 【到達目標】アメリカではいかにして工業化が始まったのかを理解する 【準備学習】関連する参考文献を読む</p> <p>■6回目 【テーマ】バクス・アメリカナ(2):アメリカにおける大量生産体制の確立 【到達目標】大量生産体制とは何かを理解した上で、なぜアメリカにおいてそのような技術が発展を遂げたのかを歴史的に理解する 【準備学習】5回目の授業内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■7回目 【テーマ】事例・アメリカの自動車産業(1):アメリカ自動車産業の勃興 【到達目標】事例としてアメリカ自動車産業を取り上げ、アメリカにおける自動車産業の歴史を理解する 【準備学習】関連する参考文献を読む</p> <p>■8回目 【テーマ】事例・アメリカの自動車産業(2):フォードの歴史 【到達目標】事例研究としてフォードの歴史について理解する 【準備学習】7回目の授業内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■9回目 【テーマ】事例・アメリカの自動車産業(3):フォードの発展要因 【到達目標】フォードがなぜT型を製造し、成功していったのかを理解する 【準備学習】8回目の講義内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■10回目 【テーマ】事例・日本の自動車産業(1):戦後の自動車産業とアメリカ型生産・経営技術の導入 【到達目標】事例として日本の自動車産業をとり上げ、日本における自動車産業の歴史を理解する 【準備学習】関連する参考文献を読む</p> <p>■11回目 【テーマ】事例・日本の自動車産業(2):豊田喜一郎とトヨタ自動車 【到達目標】事例研究としてトヨタ自動車の歴史について理解する 【準備学習】10回目の講義内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■12回目 【テーマ】事例・日本の自動車産業(3):トヨタ生産方式 【到達目標】トヨタ自動車の歴史を戦前に遡り理解し、またトヨタ自動車のモノづくりの原点を戦後日本の歴史の中で理解する 【準備学習】11回目の講義内容を復習し、関連する参考文献を読む</p> <p>■13回目 【テーマ】春学期まとめ</p>

	【到達目標】授業の目的・目標に沿って授業内容を整理し自分の意見を述べるができる 【準備学習】これまでの授業の内容を振り返る
教科書	テキストは特に指定しないが、配布する参考文献一覧(Webclassにアップ)を参照し熟読すること。
参考文献	アダム・スミス、杉山忠平訳『国富論』全4巻、岩波書店、2000～2001年；アーノルド・トインビー、塚谷晃弘他訳『英国産業革命史』邦光堂、1951年；アルフレッド・チャンドラー、鳥羽欽一郎他訳『経営者の時代』上下巻、東京経済新報社、1979年；安部悦生『経営史』日本経済新聞社、2002年；阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』筑摩書房、1993年；石田光男他『日本のリーン生産方式～自動車企業の事例』中央経済社、1997年；伊丹敬之他『競争と革新～自動車産業の企業成長』東洋経済新報社、1988年；伊藤光晴他『シュンペーター』岩波書店、2002年。その他、詳細はWebclassの資料にて一覧をアップ。
授業の方法	授業方法は「講義形式」として実施。ただ、毎回の授業においてQ&Aの時間を取り、なるべく双方向の時間を設ける。履修者が多い場合、質問はWebclassを通して受け付け、次回の授業でフィードバックする。履修者が少ない場合、授業内でQ&Aを実施する。
成績評価方法	【評価方法・割合】定期テスト[確認テスト・レポート](70%)、平常点(30点) 評価の基準について、(1)レポートは①論理的に書かれているか、②授業内容に沿っているかなどを基準に評価する、(2)平常点とは主に授業へのコミットメントの度合いである。確認テストの解答についてはWebclassおよび授業内にてフィードバックする。
オフィスアワー	水木金のお昼休み、及び事前連絡により適宜対応。
居室	17号館312教室(辻研究室)； メールアドレス ctsujij@josai.ac.jp
ホームページ	特になし
その他特記事項	【ナンバリング : MAN213J】「経済史概論Ⅰ・Ⅱ」も合わせて受講していただきたい。また、履修者上限を150名とし、それを超える場合は抽選とする。
添付ファイル	